

「Society 5.0に関する意識調査」結果報告

一般財団法人 経済広報センター

20世紀後半から近年にかけて、コンピューターやインターネット、スマートフォンなどの情報技術が生活に深く入り込み、大量に生み出された情報が世界中を駆け巡る「情報社会」に人類は生きています。そして今、AI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）といったデジタル技術の急速な進展によって、社会の在り方はさらに大きく変わろうとしています。日本政府が策定した「第5期科学技術基本計画」では、人類がこれまで経験してきた社会を、狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）とし、これらに続く第5段階の新たな社会を「Society 5.0（ソサエティ 5.0）」と名付け、現在、Society 5.0の実現に向けて、官民で様々な取り組みが進められています。

このような中、経済広報センターは、全国の様々な職種、世代により構成されている当センターの「社会広聴会員」を対象に、「Society 5.0」の考えが生活者にどの程度浸透しているのかについて調査しました。

今回の調査結果では、Society 5.0の認知度については、「内容を知っている（知っている／ある程度）」は16%。「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」と合わせると「言葉を知っている」のは43%。「全く知らない」は57%となりました。

Society 5.0の進展による約10年後の将来像についても、「期待している（とても／少し）」が34%で、「不安である（少し／とても）」（40%）を下回りました。

また、Society 5.0の実現で大きく変化すると思うのは、「ヘルスケア技術の向上、健康寿命の延伸」が約6割（58%）と最も高く、「医療・介護体制の向上、福祉・子育てシステム創出」も4割（41%）と3番目に高いことから、特にヘルスケア分野において高い期待が寄せられていることがうかがえました。

日本企業へ期待する内容は、「SDGsなどの地球規模の課題の解決」がトップ（46%）で、以下、「生み出す付加価値の増大と社会への還元」「働き方改革・雇用慣行のモデルチェンジ」が約4割と上位に挙がりました。

【調査の概要】

- ・ 調査対象：2,757人
- ・ 調査方法：インターネットによる回答選択方式および自由記述方式
- ・ 調査期間：2019年10月24日～11月5日
- ・ 有効回答：1,453人（52.7%）
- ・ 回答者の属性：
 - 男女別：男性（627人、43.2%）、女性（826人、56.8%）
 - 世代別：29歳以下（21人、1.4%）、30歳代（130人、8.9%）、40歳代（190人、13.1%）、50歳代（450人、31.0%）、60歳代（351人、24.2%）、70歳以上（311人、21.4%）
 - 職業別：会社員・団体職員・公務員（585人、40.3%）、会社役員・団体役員（68人、4.7%）、自営業・自由業（118人、8.1%）、パートタイム・アルバイト（182人、12.5%）、専業主婦・夫（260人、17.9%）、学生（8人、0.6%）、無職・その他（232人、16.0%）

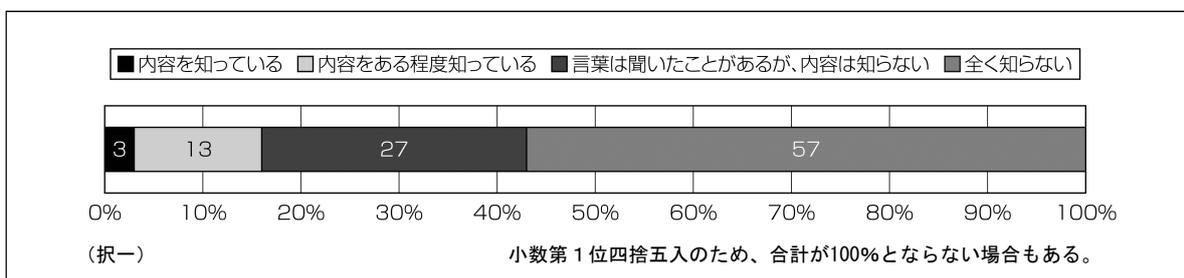
【結果の概要】

1. Society 5.0の認知度

Society 5.0について「言葉を知っている」は、43%

Society 5.0について、「内容を知っている」(3%)、「内容をある程度知っている」(13%)を合わせると、「知っている」は16%。「言葉は聞いたことがある」を含めると、43%という結果になっている。「全く知らない」が最も高く、57%となっている。(図1)

図1 Society 5.0の認知度

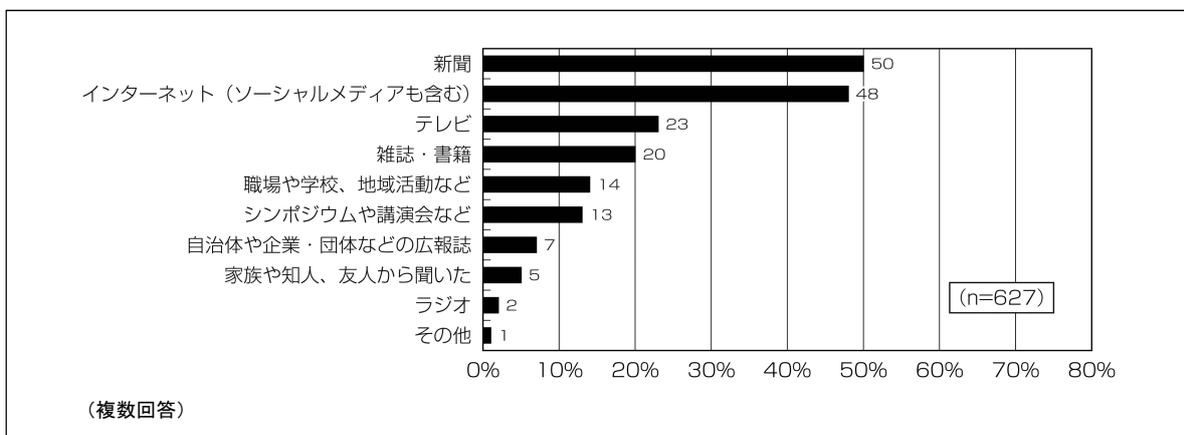


2. Society 5.0の情報源

Society 5.0を知ったきっかけは、「新聞」「インターネット」が約5割

Society 5.0の認知度(図1)で、「内容を知っている」「内容をある程度知っている」「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」と回答した人(43%)に、Society 5.0を知ったきっかけを聞いたところ、「新聞」(50%)が最も高く、次いで「インターネット(ソーシャルメディアも含む)」(48%)となっている。以下、「テレビ」(23%)、「雑誌・書籍」(20%)と続いている。(図2)

図2 Society 5.0の情報源

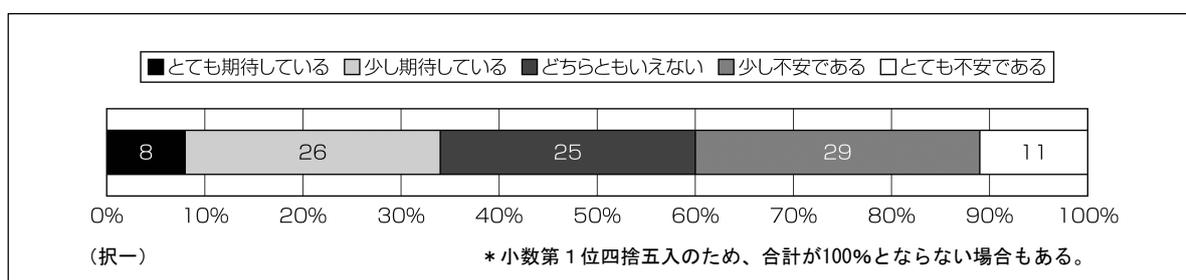


3. Society 5.0への期待度

10年後の将来像に、「期待している」が34%、「不安である」が40%

今後、技術進歩等を通じて生活がより豊かになる一方で、社会の在り方は大きく変容することが見込まれているが、約10年後の将来像について、どのように思うかを聞いたところ、「とても期待している」が8%、「少し期待している」が26%となり、「期待している（とても／少し）」(34%)が、「不安である（少し／とても）」(40%)を下回っている。（図3）

図3 Society 5.0への期待度



「期待している（とても／少し）」理由

- ◇技術革新によって、社会的課題が解決されていく
- ◇技術が加速度的に進歩しており、生活に豊かさがもたらされる
- ◇超高齢化社会の中、医療・介護で生かされることが期待できる
- ◇自動車の自動運転技術や安全技術が高まる
- ◇A I や5 G の進化で、もっと世の中が便利になる

「不安である（少し／とても）」理由

- ◇A I やI T の進歩に自分がついていけなくなると思う
- ◇人間が技術や情報に振り回されそう
- ◇技術や情報を誰かに悪用されるかもしれない
- ◇技術の進歩が必ずしも人々の生活を豊かにするとは思えない
- ◇よく分からないから

「どちらともいえない」理由

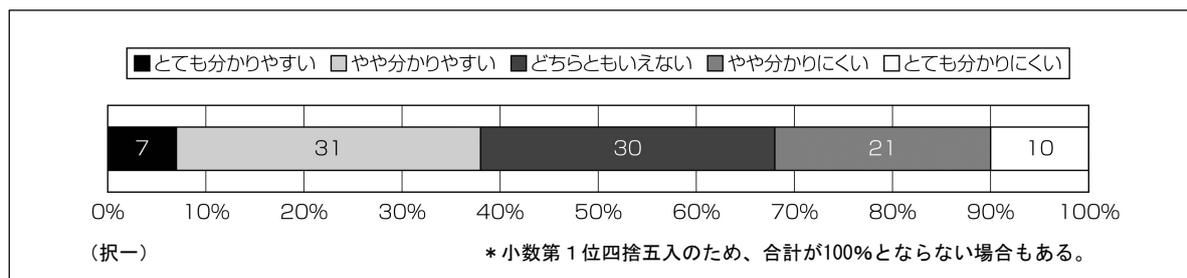
- ◇期待できる部分、不安な部分が両方あるから
- ◇イメージがわからない

4. Society 5.0の説明文

Society 5.0の説明が「分かりやすい」が約4割

未来社会のコンセプトであるSociety 5.0の以下の説明文について聞いたところ、「とても分かりやすい」が7%、「やや分かりやすい」が31%となり、合わせて約4割（38%）が「分かりやすい」と回答している。（図4）

図4 Society 5.0の説明文



※回答者に、以下の説明文を表示し、調査した。

<Society 5.0とは>

現在、革新的なデジタル技術が次々と生み出され、社会の在り方を大きく変えようとしています。IoTによって様々なモノのデータをリアルタイムに収集でき、AIがデータを分析することで複雑な問題も解けるようになります。このデジタルトランスフォーメーション（デジタル革新）の波は止まることなく、人々の生活やビジネス、産業構造、雇用などの在り方を大きく変えようとしています。

ただし、技術は使いようによっては幸せで豊かな社会を実現しますが、使い方を誤れば社会に影を落とす可能性もあります。新たな社会をどの方向に導くかは私たち次第です。「どのような社会が訪れるのか」を予測しようとするのではなく、「どのような社会を創るのか」と主体的に考えることが私たちには求められています。

経団連はSociety 5.0を「創造社会」と呼ぶことを提唱しています。創造社会とは、「デジタル革新と多様な人々の想像・創造力の融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会」です。デジタル技術やデータをどう使うか、多様な人々が人間ならではの想像力や創造力を発揮して、多様な課題を解決し、より良い社会を創造していきます。誰もが、いつでもどこでも、安心して、自然と共生しながら、価値を生み出す社会を目指していきたいと考えています。

変化は様々な分野に起こります。例えば、ヘルスケアにおいては、これまでは平均的な患者や症状に対して画一的な治療を行ってきましたが、Society 5.0では一人ひとりの健康状態に合わせて、病気になる前の未病、予防の段階から適切なケアを提供し、発病、重症化を防いで健康寿命を延ばします。個人も自分の意思で自分のライフコースにわたるデータの活用・管理などに関与し、人生100年時代の生涯にわたって主体的に自分の健康を管理できるようになります。

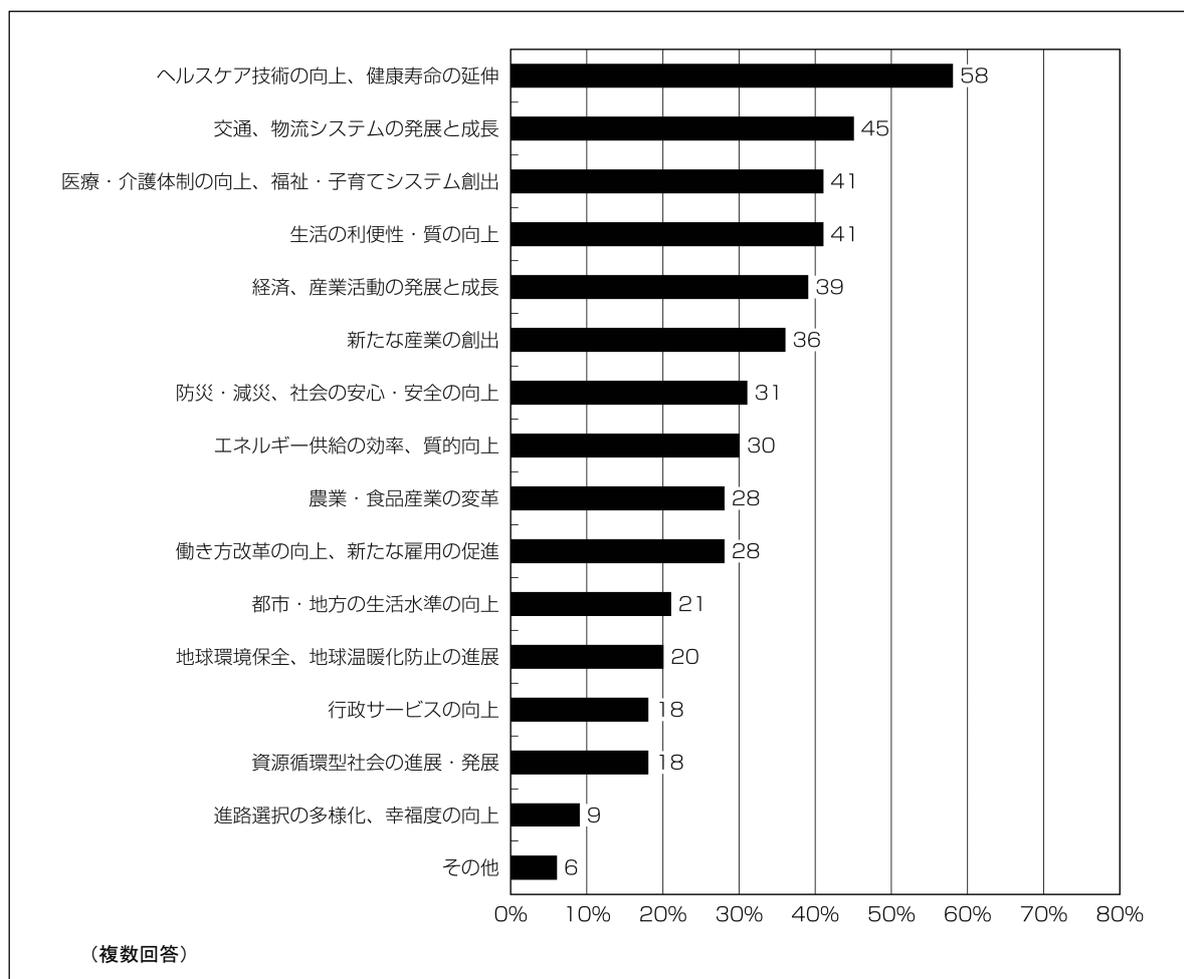
日本はこの新たな社会の実現を主導できる力を秘めていますが、変革が必要な部分も多くあります。Society 5.0に向けて、産業構造、経営、組織、雇用慣行、教育、地域等をどのように変革すべきかについて、経済界としても議論を進めています。

5. Society 5.0実現による生活の変化

Society 5.0の実現で大きく変化と思うのは「ヘルスケア技術の向上、健康寿命の延伸」が約6割

Society 5.0の実現による変化で、今までの生活と比べてどのような変化があると思うかを聞いたところ「ヘルスケア技術の向上、健康寿命の延伸」が58%と最も高く、次いで、「交通、物流システムの発展と成長」(45%)、「医療・介護体制の向上、福祉・子育てシステム創出」「生活の利便性・質の向上」(共に41%)、となり、これらが4割を超えている。一方、「進路選択の多様化、幸福度の向上」が最も低く(9%)、「行政サービスの向上」「資源循環型社会の進展・発展」(共に18%)は2割に満たない。(図5)

図5 Society 5.0実現による生活の変化

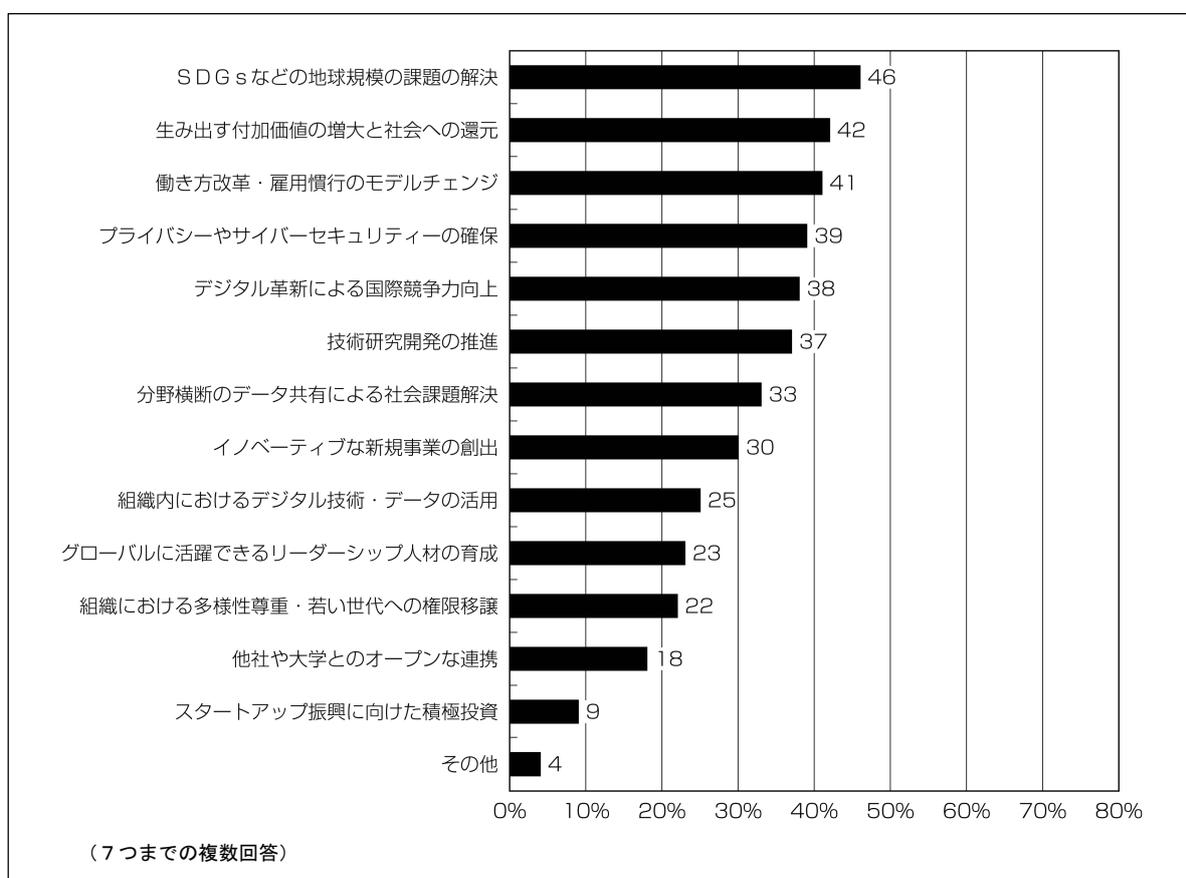


6. Society 5.0に向けた日本企業への期待内容

日本企業への期待は、「SDGsなどの地球規模の課題の解決」が46%でトップ

「Society 5.0時代」に向けて、日本企業に期待することを聞いたところ、「SDGsなどの地球規模の課題の解決」がトップ（46%）となっている。以下、「生み出す付加価値の増大と社会への還元」（42%）、「働き方改革・雇用慣行のモデルチェンジ」（41%）、「プライバシーやサイバーセキュリティの確保」（39%）と続いている。（図6）

図6 Society 5.0に向けた日本企業への期待内容



以上